

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000520		
法人名	法人種別:医療法人	法人名:医療法人社団北星会	
事業所名	医療法人社団北星会 グループホーム ふあみりあ		
所在地	北海道北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル3F・4F・5F		
自己評価作成日	平成28年6月1日	評価結果市町村受理日	平成28年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・出来るだけ入居者との外出を心掛けている。(散歩・買物・ドライブ・観光地等)
 ・近所の商店や・美容院を利用し地域との交流をしている。
 ・ホーム所有の車両2台でドライブがてら遠出をしている。北見常盤公園の桜・フラワーパラダイス・上湧別 チューリップ公園・東藻琴芝桜公園等毎年各地の花々を見に行ったり、オホーツク管内の各観光地などに出かけている。秋には相の内神社の紅葉見物も行っている。
 ・日勤者は4名・夜勤者は2名を確保している。月に1~2度、出前を取り入居者と一緒を楽しんでいる。
 ・誕生パーティーを開きスタッフからプレゼントを贈っている。
 ・外食にもよく出かけ(ホテルのレストラン・ファミリーレストラン・ラーメン・そば・うどん・回転寿司・ウエスタン・喫茶店など)、時には入居者スタッフ全員でお昼にカップ麺やおにぎりを食べる日もある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000520-00&PrefCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を家族の一員として、自分の家族に対して何が出来るのだろうかを常に自問自答しながら、利用者に寄り添いサービス向上に努めています。また、利用者の意思決定を常に行えるよう、職員は利用者に関心を持てるよう心がけています。日常的に、家庭で行っているゴミ出しや掃除、花壇の水やり、食事の手伝い、片付け、茶碗拭きなど職員とできるうちに、利用者の日々の状況、出来る事や出来ない事の見極めを行い、利用者の希望や日々の生活に充実感が持てるように働きかけ、残存能力の維持に努めています。認知症の進行を遅らせるよう、脳の刺激による活性化を図るため、日ごろから日光表を付け、特に有酸素運動の散歩に取り組んでいます。桜見学、菊祭り、買い物、出前などの他、月2回程の外出(美幌岬、網走湖畔、小清水等)を企画し、日常的に外部刺激を受けやすい環境作りを心がけています。また、行ったことのない外食店や外出先の企画など利用者の笑顔や喜ぶ姿が見られるように職員が意欲的に取り組んでいます。ホーム長は、利用者が家庭でくつろげるような雰囲気になるように、照明を薄赤色や棚等を木製にしたり、スチールに布をかけたりと事業所のイメージが家庭的な雰囲気になるように工夫しています。利用者の健康管理は、関係系列の病院看護士長や当事業所の看護師が協議し、安心して生活できる様に取り組んでいます。ホーム長及びユニット長は定期的に職員への聞き取りを実施し、頑張ったところ、努力したところを評価することで職員の介護力や仕事への取り組み姿勢が向上し、結果、利用者のケアへと還元されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は地域密着型サービスの意義を踏まえ、独自の理念を作り、すべてのスタッフが理念を周知、理解し共有し、実践につなげている。	理念は各ユニット玄関に掲示すると共に、ミーティング時に唱和し浸透を図り実践に取り組んでいます。職員は利用者を家族の一員として、家族(利用者)に対して何ができるのかを常に念頭に置き、寄り添い言葉や表情から意向や希望を把握し、利用者に「第2の家」と思っただけよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、町内会に参加しており、入居者が日常的に交流できるように地域との繋がりを持ちながら、地域の一員として暮らし続けられるようにしている。	日常的に地域の商店街を食材の買い物やウインドウショッピング、散歩に出掛け、地域の人達と挨拶を交わしたりしています。地域へ事業所の通信を配布し、地域の認知症事業所として理解を広める努力をしています。また、ビルにあるサロンを利用者とともに訪れ交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けてため入居者と町内の商店街を利用したり、車椅子で散歩などを行い町内会の回覧板にも通信(目隠し)を掲載している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、二ヶ月に一回開催し、入居者の代表、入居者の家族、スタッフの他、外部の知見者にも出席してもらい、意見交換や評価してもらいサービス向上に活かしている。	定期的開催され、市役所の担当・町内会長・地域包括支援センター・家族がメンバーで、事業所と利用者の状況報告、行事、事故等の報告や、その時々時事問題から取り上げた意見交換を行い、サービスの向上に活かされています。	利用者家族に順番性や開催日を行事にぶつける等の工夫で運営推進会議の参加を促し、出来るだけ多くの異なった立場から、意見や要望を得てより適正な事業所運営が図られることを期待します。(また、構成メンバーの工夫も期待します。)
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みには、市役所の介護福祉課・社会福祉課や地域包括支援センター等と密に連絡を取り、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	利用者の状況や空き室情報、また、月1回の事業所の通信を利用者とともに担当課に届けるなどの交流を行っています。運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加し、協力体制や情報交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為の書いてある紙を玄関に貼っており、身体拘束について定期的にミーティングで話し合い、禁句ワードを作成する等スタッフ全員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成している他、認知症介護研修に参加し、禁止言語のNGワードに取り組むなど職員は業務の中で、常に様々な場面の情報を交わし、連携して身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。また、年2回、内部研修を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は研修、講演会に参加をしており、定期的にミーティングを行ってスタッフ同士が、虐待を見過ごさないよう、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度が活用できるよう、管理者、職員は講演会、研修会へ参加し学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者とその家族には十分な時間をかけ説明を行い、文書でもお知らせし、疑問や不安のないよう、契約の締結、解約又は、改定等の際は理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが入居者や家族と会話できる機会を多く持ち、意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回の新年会や焼肉など家族参加の交流を行っています。重要事項等に苦情や意見等の申出ができることを明記し、面会時や電話連絡時には、利用者の日々の暮らしぶりを報告し、介護に対する意見や要望等を出しやすい環境を作っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月に1回のスタッフミーティング、ユニット長会議を設け運営に関する意見や提案を反映させている。	職員が日々の申し送りやスタッフミーティング等で、意見や提案を出しやすい環境を整えています。出された意見等は各ユニット長とホーム長で検討し、事業所の運営や業務改善に活かしています。経験者・新人の介護職員育成計画を作る事で話し合う機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員各自が向上心を持って働けるよう、スタッフの努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境、条件の整備に努め、資格取得や勤務年数、能力に応じた賃金アップやパートから準社員、正社員への昇格など、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が研修等への参加を促し、働きながら勉強したり社内研修を進めている。またスタッフが入居者に対してのNGワード(だめ・どこ行くの)を設定し発言したスタッフにペナルティを決めている。新人介護スタッフ育成計画書も作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会オホーツクブロックに所属しており、同業者とのネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフは本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け、安心してサービスの利用を開始をしていただけるよう、利用を開始する段階に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフは家族などが困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、安心してサービスを利用していること、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフはご本人、ご家族などがまずどんな支援が必要かを見極め、サービスの利用を導入する段階で要望をお聞きし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは本人の出来る事を見極め、出来る事はして頂き、介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする関係になっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、家族を支援される一方の立場に置かず、共に本人を支えていくため、遠慮なく話し合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切な馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、支援をしている。	行きつけの美容院や商店への外出の他、知人や友人との交流等、馴染みの関係が続き途切れないように努めています。また、墓参り等、行き慣れた場所への外出には家族の力を得ながら支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。入居者同士の関係を把握し、一人一人が孤立しないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スタッフはお見舞い・面会など必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談、支援に努め、サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握にスタッフがー丸となり努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	家族の協力のもと、ライフヒストリーを作成し、これまでの生活歴を把握し、日々のケアの中で事業所での生活に対する希望や意向等を確認しています。職員は利用者が自己決定できるように問いかけに心がけています。また、確認が困難な利用者に対しては、日頃の表情やしぐさ、言葉の端々から汲み取り、常に家族の一員として利用者の視点に立って職員間で話し合い、情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは本人や家族の方に今までの生活や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、個人日誌の記入、連絡ノート等の記入、月一度のスタッフ全員のミーティング等で入居者の現状を把握し、一人一人の暮らし方、心身状態の変化などスタッフに周知徹底するよう取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを出し、それを反映した、本人がよりよく暮らすための個人の現状に即した介護計画を作成している。	家族の訪問時にサービス担当者会議を開催し、利用者の日頃の状況や家族から意向を確認した上で、職員間で話し合い、本人主体となる介護計画を作成しています。6ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しをしている他、利用者の心身状態に大きな変化があった時は、随時、見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフは、入居者の日々の様子や話の内容、ケアの実践、結果や気づき等の内容を個別日誌に記入し、職員間で情報を共有しひもときシートにも活かしている。それを実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフは、入居者には時間を制限することなく安定した暮らしを送っていただいている。その時々にも生じるニーズには既存のサービスに捉われない対応や柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者はカラオケ等ボランティアの発表会や地域のお祭りに参加して市民との交流を図っている。週に何度か通う馴染みの店もある。お散歩がてらウィンドウショッピングも楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・納得した医療機関を受診しており、適切な医療が受けられるように支援している。通院時には家族への申し送りをしている。スタッフ対応時も現状、経過など、その都度家族に連絡している。	利用者の希望するかかりつけ医には事業所が対応し、受診内容はご家族へ報告し情報を共有しています。歯科医の往診や隣接の病院の看護師や週1回の事業所の看護師による健康管理が利用者の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師や職場や系列の看護職員などに相談している。入居者が一人一人が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者が安心して治療が出来る、できるだけ早期に退院できるよう医療機関と連携をとり、情報交換に努めている。そうした場合に備えて病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のあり方について、ミーティング時やスタッフ間で意見を出し合い話し合いを持っている。家族・かかりつけ医とも相談して、どのように支援していくかチームで取り組んでいる。	契約時に利用者やご家族と重度化した場合や終末期について説明し、想いや意向を傾聴し希望に添った対応を行っています。看取りについての指針があり利用者のご家族の意向を踏まえターミナルに向けてのプランを作成した看取りの契約書・同意書があり、想いに変化があればその意向に沿うべく医療機関の受け入れなどの支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは全員、消防署の初期対応訓練を受けている。入居者の急変や事故発生時のマニュアルを作成しており、いつでもすぐに見られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成していつでもすぐに見ることができ、昼夜をとわず入居者が非難できるようにしている。また、半年毎にホーム長、スタッフ全員で消防訓練を行い、地域との連携・協力体制を築いている。	夜間を想定して4月に実施しており、10月は消防署立会いのもと避難訓練の実施を予定しています。各ユニットに消火栓ホースの備え付けや地下貯水槽があり水不足の解消、近隣に病院があるため停電にならずらい環境にあります。災害時には同医療法人の病院や町内会のホテルとの協力体制が出来ています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者の人格を尊重し、プライバシー事項の声掛けは耳元や居室で行っている。又、個人情報の取り扱いは家族から同意書をもっている。	職員は質問形で声掛けし、利用者が自分で考え自己決定出来るよう人格を尊重し尊厳を守るよう取り組んでいます。書類などはカバーを掛けプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは声掛けする時は質問型で行い、自己決定できるように働きかけている。入居者本人が日常生活のなかで、なるべく自分で意思決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合等を優先せず、入居者一人一人のペースを大切にしている。希望や要望等がある場合はそれに添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者はスタッフと近所の美容院に行ったり、一緒に洋服を買いに行き、本人に選んでもらったりしている。本人が好きなおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け片付け食器洗いなど入居者と一緒に行い、スタッフも一緒に会話を楽しみながら食事をしている。入居者の好みを聞き、献立に取り入れている。	献立は利用者と職員が相談しながら週2回一緒に買い物へ行き調理、盛り付け、後片付けなどを行っています。年に1度、法人の医療機関の栄養士にタンパク質、野菜、カルシウム、豆類、果物をバランス良く摂取しているか等を見てもらい指導を得て今後活かしています。出前や外食、誕生日の手作りケーキは利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立で同じ食材が重ならないよう、30品目使用した栄養バランスの取れた献立を心がけ栄養士のチェック・指導を受けている。食事量・水分量チェックもし状態に応じミキサー食やキザミ食で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・就寝前に、入居者の力に応じて、声掛け・誘導・促し・介助を行って、口腔ケアし記録している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の一日の排泄のパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を心がけている。トイレ誘導の声掛けは入居者のプライバシーに配慮して行っている。	出来る限りトイレでの排泄を基本に利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせた対応を心掛けています。自尊心を損ねないように耳元で声掛け誘導し自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。又、声掛けして、体操や散歩を促している。水分も一日1600ccを目標にして記録をしている。主治医の指導のもと、便秘薬の服用も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの都合で曜日や時間帯を決めず、入居者個人個人にタイミングを見て声掛けし、気分転換にもなるので、気持ちよく入浴できるよう心がけている。	利用者の体調や希望に合わせた支援をし、楽しい時間になるよう心掛け、最低週2回を基本にしています。また、毎日入浴したい利用者にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スタッフは入居者の生活習慣などに応じて、休息や安眠できるように支援・声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを見て、薬の目的・副作用・用法・用量については、スタッフ全員が目を通し理解している。入居者の状態の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に朝のゴミ出し、買い物、看板だし、花の水やり等、力を活かした支援をしている。散歩等で一日一回外出(日光表)で気分転換を促している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと週2回の食材等の買い物や散歩に出かけている。他に季節ごとの花見や紅葉の時期には少し遠出のドライブなどにも出かけている。	家にいた時と同じ状態の生活をさせていただくために、日光表をもとに1日20分を目安に、日常の買い物や商店街の散歩など出来るだけ外に出掛けるよう支援しています。月2回の遠出のドライブは利用者の楽しみになるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がほしいものがある時は力量に応じて支援している。金銭管理が出来ない方でも家族と話し合い、支援している。入居者の希望でスタッフと一緒に買い物に行き、好きな物を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望したときはいつでも電話できるようにしている。電話の出来ない入居者はスタッフが掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床はバリアフリーで段差なく安全に歩行できるようにしている。日中は居間に入居者が集まり、居心地よく、くつろいでいる。スタッフは室温や湿度にも気をつけており、季節にあった飾りつけもしている。	居間は木目を基調に温かみのある空間になっています。照明は昔ながらのやさらかな優しい感じの灯りで利用者は居心地良く落ち着いて生活できる家庭的な雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで気の合った入居者が仲良く話しをしたりテレビを見ている。食卓テーブルでは、読書や塗り絵をしたり、思い思いに過ごしている。キッチン横に入居者が一人になれる椅子がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と相談し、自宅で使い慣れたイスや筆筒を置いている。植物の好きな入居者は鉢植えの花を置いている。	利用者が使い慣れた筆筒や布団、家族写真、仏壇などがあり以前生活していたそのままです。利用者の個性があふれている居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室に手すりがあり、居室・風呂場・トイレには表札を掛けて、分かりやすくしている。また、出来る事を活かして自立した生活が送れるようにしている。		